

美しい 県土づくりNEWS



2008 年

3月

岩手県県土整備部

手づくり広報誌 44号

平成20年3月5日発行

編集 県土整備企画室



目次

- 2 豊年橋現場見学会 ～地域に開かれた公共事業を目指して～
- 4 新分野進出等表彰企業決定
- 7 平泉世界遺産関連景観緊急対策事業
- 8 『道・川・まちをきっかけにした元気な地域づくりフォーラム』
《座談会・パネルディスカッション》
- 17 『岩堰川フォーラム』開催
- 18 『コンパクトな都市づくり推進フォーラム』開催
- 19 空港整備事業の紹介
- 20 主要地方道大船渡広田陸前高田線『船河原地区』竣工
- 21 大荒沢川筋 川舟2号堰堤完成

県営鳴石アパート(陸前高田市)

「環境との共生」をテーマにした県営鳴石アパートが完成しました。(木造2階建て3棟 計20戸) 県営アパートでは初めての木造住宅です。地球温暖化がクローズアップされていますが、地球にやさしい工夫が盛りだくさん。県では、この住宅を通じて、環境共生住宅の普及を進めていきます。



～ひとに、地域に、地球にやさしい工夫あれこれ～

風通しの工夫(1階窓から冷気を取り込み、高窓から熱気を排出)、シックハウスの心配のない天然素材建材を使用、全戸バリアフリー、雨水貯水タンクの設置、太陽光発電による庭園灯

「地域に開かれた公共事業を目指して」

豊年橋現場見学会 <一般県道上斗米金田一線豊年橋工区の取組み>

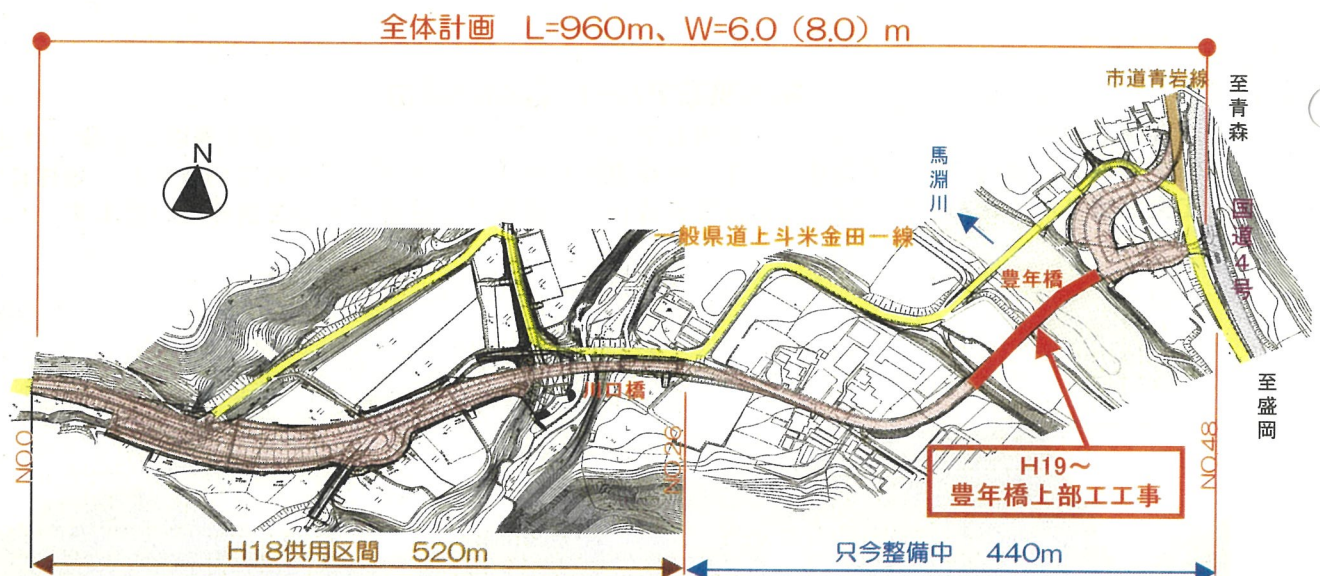
二戸地方振興局土木部

○事業概要等

一般県道上斗米金田一線豊年橋工区では、昭和38年に建設された老朽橋の架替え、また幅が狭く見通しの悪い急カーブ急勾配の道路の隘路解消を目的に、平成12年度から21年度の予定で整備を進めています。

これまで、下の絵のとおり、全延長960mのうち520mは完成し、地域の皆様等に利用していただいています。

当部では、地域の住民の方々に「公共事業への理解を深めていただきたい」また「地域の橋として愛着を持っていただきたい」との趣旨から、現在施工中の豊年橋上部工工事の現場見学会の開催を地元へ呼びかけ、平成19年8月の着工から現在までに、地元の工業高校の生徒たちや、地元の住民の方々を対象に2回の現場見学会を開催しました。



●1回目 ～将来、二戸地域をしょって立つ若者たちと～

平成19年12月12日に福岡工業高校都市工学科2年生と先生方計17名が豊年橋上部工工事の現場見学に来ました。

地元では、最近まれにみる大型工事のため、工事内容等について福岡工業高校に情報提供したところ、「工事現場を実際に見ることが、生徒たちにとって仕事について何か考えるきっかけとなれば」ということから、授業の一環として現場見学したいという申し入れがあり、当見学会を開催することになりました。

見学会では活発に質問が出され、また見学会後は「あの工事の仕事って俺たちでもできるんですか?」といった言葉が生徒たちから聞かれるなど有意義な見学会となりました。



現場に設置された大きな工事説明看板の前で真剣に工事の説明を聞く生徒たち

いらっしゃいませ!
ようこそ工事現場へ!



工事中の橋の上にあがりました。真下は馬淵川です。ここではいろいろな質問が活発にだされました。

●2回目 ～事業にご協力いただいている地元住民の皆様と～

平成20年3月2日に地権者の方々を含む地元住民の皆様方計42名が豊年橋上部工工事の現場見学に来ました。地元の主要作物である葉タバコの出荷（二戸市は販売代金2年連続日本一！）が終わり、ホッと一息ついたところで現場見学会を企画したものです。

新しい橋ができれば「大型車のすれ違いができるようになること」また「洪水等の災害や地震に強い橋になること」等を説明し、豊年橋工区の事業について、理解を深めてもらうことができました。

また、家族連れで見学に来た方々もあり、子供たちもお父さん、お母さんとしっかり手を繋ぎながら工事の橋の上を歩くなど普段見ることのできない風景を楽しんでいる様子でした。

見学者からは「トラベラー※の移動方法」や「どんなコンクリートを使っているのか」また「この橋の寿命は何年か」といった質問が出され、回答を聞きうなずく様子が見受けられました。

また、「このような橋ができると安心だ」「早くできるといいな」といった声が聞かれるなど、終始和やかな雰囲気で見学会は進みました。

（※トラベラー：架設用移動作業車）



現場に設置された大きな工事説明看板の前で事業概要や架設方法等の説明をしました。



桁の上にあがり、トラベラーについての説明を聞いているところです。



建設中の豊年橋をバックにみんなで記念撮影をしました。帰りまでにプリントして全員に配布しました。



家族と来た子供たちです。大きくなっても豊年橋や道路を大切に使ってくれることでしょう。

今回は豊年橋上部工の現場説明会でしたが、「今後の事業の進め方」や「工事期間中の道路の迂回方法」等の質問も個々に出されました。これらについても、適切な時期にできるだけ早く、地元の方々に情報を提供していくことで、地域に開かれた公共事業の推進を図っていきます。

また、二戸土木部では都市計画道路上野西法寺線新岩瀬橋上部工工事でも地域住民と福岡工業高校の生徒に対し同様に現場見学会を開催するなど情報発信に取り組んでいます。

新分野進出等表彰企業決定

建設技術振興課

平成 19 年度建設業新分野進出等表彰式が 2 月 14 日、盛岡市松尾町の建設研修センターで開催されました。表彰式に続き、最優秀賞・優秀賞を受賞した企業によるプレゼンテーションが行われ、新分野進出などの経営革新に挑戦する企業の取組みが紹介されました。

この事業は、農林水産、環境リサイクル、福祉、建設、サービス関連分野等、新分野・新事業への進出や新技術・新工法の開発など、先進的・意欲的な企業の取組みを顕彰し、広く奨励することを目的に、平成 17 年度から行っているものです。

今年度は、最優秀賞 5 社、優秀賞 10 社を表彰するとともに、奨励企業として 18 社（19 事業）を認定しました。

受賞した皆様の経営革新の取組みが、優れた先例となるよう期待しています。



表彰式の様子



記念撮影



プレゼンテーション



事業紹介ブース

平成 19 年度建設業新分野進出等表彰企業一覧

最優秀賞

	分野	企業名	所在地	事業内容
1	農林水産	(株)宅石組	久慈市	ブロイラー飼育販売事業
2	環境リサイクル	オヤマダエンジニアリング(株)	盛岡市	高含水率木質チップ焚温水ボイラー「エコモス」製造販売事業
3	保健福祉生活	(株)千葉匠建設	北上市	軽費老人ホーム（ケアハウス）、老人デイサービスセンター運営事業
4	建設（技術・工法、リフォーム等）	(株)伊藤組	花巻市	土質試験・現場試験の試験代行サービス事業
5	サービス関連（小売・飲食、サービス等）	(株)小原建設	北上市	指定管理者制度への参入

優秀賞

	分野	企業名	所在地	事業内容
1	農林水産	昭栄建設(株)	盛岡市	ボックス式（地下水を利用して短時間で栽培することができる栽培装置）わさび栽培事業
2	農林水産	大崎建設(株)	田野畑村	ハウレン草生産販売事業
3	農林水産	(有)根井建設	久慈市	菌床しいたけ生産販売事業
4	農林水産	(株)竹花建設	久慈市	菌床しいたけ生産販売事業
5	環境リサイクル	(株)及川工務店	釜石市	プラスチックリサイクル事業
6	建設（技術・工法、リフォーム等）	東野建設工業(株)	盛岡市	無添加（有害化学物質を使用せず、シックハウスの心配のない）住宅建築事業
7	建設（技術・工法、リフォーム等）	三陸土建(株)	盛岡市	下水道管きょ等の点検調査・清掃事業、非開削による下水道管きょ等の改築工事事業
8	建設（技術・工法、リフォーム等）	(株)テラ	遠野市	プレスショット法面緑化工法事業（工事現場から発生した伐根根株、伐採材の現場還元リサイクル緑化工法）
9	サービス関連（小売・飲食、サービス等）	(株)たかしん興業	花巻市	地元温泉等へのコンパニオン派遣事業
10	サービス関連（小売・飲食、サービス等）	(株)丹野組	二戸市	不動産賃貸事業、不動産管理事業

平成 19 年度建設業新分野進出等奨励企業一覧

※表彰の対象とならなかったもののうち、意欲ある取組みと評価したものを「奨励企業」として認定しました。

	分野	企業名	所在地	事業内容
1	農林水産	(株)板屋組	奥州市	農業生産物、畜産物、花きの生産・仕入れ・加工販売事業
2	農林水産	横田建設(株)	一関市	原木乾しいたけ生産事業
3	農林水産	(株)増田組	二戸市	業務用いちご「ペチカ」栽培販売事業
4	農林水産	(株)山元	釜石市	マツカワ養殖事業
5	農林水産	(株)吉田組	八幡平市	原木乾しいたけ生産事業
6	農林水産	(有)東磐グリーン	一関市	山菜（行者にんにく、ぜんまい、なつはげ他）栽培事業
7	農林水産	青柳建設(株)	一関市	人工ほだ場による原木しいたけ生産事業
8	農林水産	(株)田中建設	西和賀町	山菜・野菜栽培事業
9	農林水産	野田工業(株)	野田村	いちご生産販売事業
10	農林水産	高常建設(株)	久慈市	いちご生産販売事業
11	環境リサイクル	(有)小山重機	一関市	産業廃棄物処分事業（主に建設廃棄物の中間処理によるリサイクル事業）
12	環境リサイクル	(株)丹野組	二戸市	木質ペレット製造販売事業
13	建設（技術・工法、リフォーム等）	(株)千葉組	大船渡市	浄化槽設備、浄化槽保守点検事業
14	建設（技術・工法、リフォーム等）	(株)菅七工務店	盛岡市	セキュリティーフィルム（防犯、防災、省エネ、飛散防止）販売施工事業
15	サービス関連（小売・飲食、サービス等）	(株)増田組	二戸市	山砂販売事業
16	サービス関連（小売・飲食、サービス等）	(株)栄組	遠野市	電解水による衛生管理システムの販売メンテナンス事業
17	サービス関連（小売・飲食、サービス等）	(有)山本建設	大船渡市	希少山野草栽培販売事業、国産種カブトムシ養殖販売事業
18	サービス関連（小売・飲食、サービス等）	小野義建設(株)	奥州市	やまびこ亭焼肉のたれ販売事業
19	サービス関連（小売・飲食、サービス等）	北海建設工業(株)	北上市	リサイクルショップ・レンタルドレス・エステサロン運営事業



平泉世界遺産関連景観緊急対策事業

～平泉の世界遺産登録へ向けた県土整備部の取り組み～

県南広域振興局土木部

県南広域振興局土木部では平成 19 年度最重要課題として、世界遺産のコアゾーンとコアゾーン間を連絡する主要ルート内のガードレール（防護柵）等の色彩・形状をガイドラインに即して周囲の景観に融和するものに改善しました。

色彩は従来の白色から景観に配慮した色彩へ、形状は視野を遮らない透過性の高いものへ改善したことで、平泉の文化遺産の景観に対する影響が軽減されました。

白が目立つ
景観をさえぎる

改善

透過性に優れた構造
景観に配慮した色彩

防護柵（主要地方道平泉厳美溪線）



防護柵（平泉町道・金鶏山入口）



デリネータ（主要地方道平泉厳美溪線）



平泉のコアゾーン（平成 17 年 7 月確定）

[1] 中尊寺境内、[2] 毛越寺境内、[3] 柳之御所遺跡、[4] 無量光院跡、[5] 金鶏山、[6] 達谷窟、
[7] 骨寺村莊園遺跡、[8] 白鳥館遺跡、[9] 長者ヶ原廃寺跡

※世界遺産のコアゾーン（核心地帯）は文化財保護法などの国内法の指定を受け、その遺産が恒久的に保護されることが必要です。全ての文化遺産が文化財保護法の指定を受けています。

道・川・まちをきっかけにした 元気な地域づくりフォーラム

昨年 12 月に開催したフォーラムの内容を 2 回にわけてご紹介。今回は、座談会とパネルディスカッションです。今回も地域づくりのアイディア満載でお届けします。

※基調スピーチは、2 月号に掲載しています。

【座談会(事例発表)】

- ◎コーディネーター NPO 法人アイディング
常務理事兼事務局長 甲山知苗 さん
- ◎アドバイザー NPO 法人地域交流センター
理事 今泉重敏 さん
- ◎二戸市堀野町内会会長 清水秀夫さん
- ◎二戸地方振興局 石川英俊
- ◎後川に清流をとりもどす会代表 大原健さん
- ◎県南広域振興局花巻総合支局 楢山護

事例:みんなにやさしい堀野みち

(住民協働による歩道の整備) - 二戸

二戸市堀野町内会は、人口は約 3,000 人、1,100 世帯。その中で会員数は約 800 世帯です。県道を挟む形で堀野地区の商店街があり、近くには公園やショッピングモールもでき、ますます人が集まる地域になりました。すると交通渋滞や交通事故等の課題が出てきたため、安全で快適な道づくりを検討しようと 2 つの組織を立ち上げてスタートしました。一つが堀野地区道づくり懇談会で、地域の代表者の方をメンバーにして、道づくりに関する計画とか利用ルールを決定しました。もう一つが堀野地区の道づくりのワークショップで、地域住民の方が参加して、自由な意見とか提案を行っています。平成 14 年は、懇談会とワークショップを 2 回開き、道づくりの基本方針作りまで進めました。15 年は、懇談会とワークショップを開催し、最終的な道づくりの基本計画案を策定しました。ワークショップ参加者 30 人程度を一班 5 名〜7 名程度の少人数に分け、地図を広げてポストイットなどに書きながら意見交換をしました。右折レーンを設置するとか、歩道・車道の幅を広げてほしいとか、信号をつけてほしいとか、花壇があつていいとか、街灯がほしい、道路が冬場

凍結して危険であるとか様々な意見が出されました。

街灯は、行政で設置した道路照明の他に、商店街の振興会が歩道内に 30 本程度街路灯を設置しました。総額 3 千万円のその半分以上を商店街の方々が自己負担しました。

ワークショップでの意見をまとめて、安全・安心・快適のキーワードを基に 3 つの目標を立てました。誰もが安心して楽しく歩ける道づくりという目標、安全で走りやすい道づくりという目標、3 つ目が快適な道路環境のためのルールづくりです。全体をまとめて「みんなにやさしい堀野みち」というキャッチフレーズを立てて、車にも歩行者にも皆さんが満足していただける道づくりを目指していこうと決めました。行政は、幅員の見直し、道路照明灯の設置、歩道の段差解消、歩道舗装のカラー化、雨水の排水性の向上を担いました。植樹マスは、少し小さいものに変えて歩きやすい歩道にしました。

町内会の役割は花壇の適切な管理です。県道、市道、児童公園などの花壇の花植え、除草、側溝整備等を担当しています。除雪は、県・二戸市・堀野町内会の三者協定で県道や市道を除雪しています。これは無料ボランティアです。60 歳以上の方々を中心に 16 名のメンバーが 3 班編成で早朝から通学・通勤路の確保のため除雪しています。

整備後に住民アンケートを行い、約 560 通の回答いただきました。「着工前に歩道整備計画について知っていましたか」という問いには、およそ 7 割の方から「知っていた」という回答をいただきました。「歩行者の安全性についてどうでしたか」という質問には、「高まった・どちらかというが高まった」という評価を約 9 割いただきました。ワークショップを通して道づくりの計画段階から地域と一緒に進めてきたことによって、お互いに理解しながら事業を進められ、整備後の満足度が高かったかなと感じております。

通常道づくりの計画段階に行政側から計画が示されますが、今回は最初の計画段階からワークショップで住民と行政と一緒にやったことで、理解も深まりましたし、事業に参画したという意味から道に対する愛着が今までと違った部分で感じる事ができました。こういうことは続

けられればいいなと思います。

手探りで進めたワークショップ

(コーディネーター 甲山さん)

ワークショップや協働で行うことに地域住民側のとまどいもあったと思うんですが、一番ご苦勞なされたのはどういったことですか。地域の中で何か変わったことがありますか？

(清水さん)

何しろ初体験ですから、最初は出席した方が2回目は出てこなかったりしましたが、結果的には100名近く参加し、良かったんじゃないかと感じています。これからは、道を造ったことで終わるのではなく、地域を活性化するために何か恒常的なものをしかけていかなければと思っています。

(甲山さん)

次のステップが来そうな予感を感じますね。行政側としてこうすればもっとやりやすくなるというような感想はありますか？

(石川さん)

二戸市さんを一緒に抱き込んで地域に呼び掛けながら進めていければもっといいものができるんじゃないかと思っています。ワークショップは初めてで、進め方も手探り状態で時間もかけながらゆっくりやりましたが、その辺を改善できればと思います。

(甲山さん)

市との連携と事例を積み重ねながら経験を積み重ねていくことでというお話をいただきましたが、今泉さんから感想や歩道を使ったアイデア等ございましたら教えてください。

これからもみち(道・未知)への挑戦

(今泉さん)

私は、まちづくり校区ということで、まち全体・校区全体をどうするかで進めています。九州でも道をどうするかという議論が出まして、その時皆さん勝手にここは狭いから広くしようと線を引かれたんです。そうしたら地権者の方が「あなた達勝手に私の家のところに線を引いているけどあなたが私の気持ちになったらどう思います。」って言われたんです。そしたらシーンとなりまして、やっぱり自分がその地権者になったつもりで道路は考えないといけないとなり、最終的には本当に困ってるところだけを

広くするということになりました。土地利用計画をつくった後に最後に出てきた言葉が、一人一人が自分の地権者になって、どうしてもお願いしたいという時には地域の人が用地交渉にあたるということまでできました。すると地権者の方も、やっぱり次世代の子どもたち、10年、20年後を考えてやろうとなりました。道づくりから、まちに広がって全体にいいのかなと思いました。街灯にしても、子どもがクラブ活動して帰るのがちょっと遅くて暗いと言われますが、じゃあその暗い時間に住民の方が歩いたかどうかということ、そういう体験を实际しないといけないし、その時に街灯がなくても通りの家の玄関の電気を9時までつけましょとかそういう運動をまずは展開して、どうしても足りない所に街灯つけようとか、実際に移動式の街灯を持ってきて点けてみるとか、そういうことで協働の道づくりができるのかなと思います。まちづくりこれから大変だと思いますが、みち(道・未知)への挑戦ということでがんばってください。



パネラーの皆さん

事例：後川における住民協働の取り組み (住民協働による川の再生)－花巻

活動地域は、一級河川後川の下流域、花巻という旧花巻町、古い街並みで約3,000世帯あり、花巻市の中心街、主な建物でいうとイトーヨーカドー花巻店があるところを流れる河川です。

取り組みの背景ですが、後川は水質が悪く、花巻市や県でも水質浄化施設等を設置するなど、行政側でハード対策を中心に進めてきましたが、やはり限界がありました。このような中、県でも親しみやすい河川にしたいということで、後

川水辺環境再生事業という工事を実施するため、平成 15 年度に 3 回懇談会を開きました。懇談会で工事の説明をした際、地域の方から、「工事だけやって現場がきれいになっただけじゃ意味がない。水がきれいにならないとみんな近寄らない。それには、住民も一緒になってやらなければならない」という意見が出されました。

次に、具体的な取り組みとしては、平成 16 年度に、後川再生支援プロジェクトチームを発足し、市民の方々が参画いたしましたワークショップを 4 回ほど実施しました。プロジェクトチームでは、花巻市、県、水土里ネットワーク、岩手大学、NPO グランドワークいわての協働により、水平パートナーシップという対等の立場で上下の関係なく連携を図っています。16 年から 18 年の 3 ケ年は、県で予算を確保し資金支援をしています。ワークショップの成果として、4 つの活動提案をしています。1 点目は後川を清掃や草刈りなどできれいにする活動、2 点目は後川の歴史を調べたり、それらを広く市民に知ってもらう活動、3 点目は下水道の普及やそれらを踏まえた水質改善や自主防災を考える活動、最後は後川の沿道に沿って快適で美しい魅力ある場所にする活動です。

17 年度は、会の設立には地元の自治会の協力が必要ということで各自治会からの推薦者を含めた計 25 名からなる世話人会と設立総会を開催しました。取り組みとしては、清掃活動、イベント検討部会や後川の歴史や地域を調べる活動、環境美化や水質改善や、低い土地での大雨水害の経験があったので、自主防災を考える活動もしました。地元小学校の総合学習支援として、北上川の変遷を石に刻み込んで北上川の堤防の上に残したり、ゴミの研究として拾ったゴミにどのようなものがあるか一緒に勉強しました。活動のまとめとして、岩手の都市河川清流化フォーラムを開き、自分たちの活動の他に宮古の山口川での取り組みのご講演をいただいて、学び合いました。

18 年度には、川の上流探検、行政との対等なパートナーシップによる合同会議の開催、後川アダプト活動の検討が加わり、会の帽子とジャンパーを身につけて活動しています。

また、会の自立に向け、後川再生支援プロジェクトチームの方々とお話をし今後すべき内

容の検討をしました。また別の視点ですが、岩手大学との協働として農学部の実験室の先生や学生さんと一緒に、流域を対象とした下水道の水洗化の促進の勉強もしています。

19 年度は、5 月に水土里ネット、花巻市、当会の三者で後川のアダプト協定を結びました。また、近くの道路工事の現場では、昔ここを北上川がどのように流れていたかという歴史学習も含めた見学会を行い、約 80 名の住民の方々が参加してくださいました。

地元住民が集まってこの会を設立しましたが、今では会員が活動を自分たちのライフワークとして散歩がてらにごみ拾い等も行っています。また会員の数名がエコリーダーや防災リーダーの育成に参加して自分たちのスキルアップを行っています。いろいろな職業や個性・才能をもった方がいっぱいいるので、課題解決に取り組む地域の自立的なシンクタンクになることを目指しています。最後になりますが、1～2 家族だった鴨の家族が今年は 7～8 家族くらいになって水もきれいになったと実感しています。私は川の横に住まいがありますが、小さな魚も上ってきて群れをなしていますし、橋では魚釣りをしている老人なども見受けられるなど年々成果が出ており、ますます活動を維持していかなければならないという気概も感じています。

活動が楽しければが大原則

(石川さん)

活動をする上での苦労とか、うまくやっている秘訣を教えてください。

(大原さん)

会の趣旨を分かり、活動が楽しければ人は参加します。私も農業用水や土地改良区のことはわかりませんが、会に参加して活動を通して、水が私の隣の川を流れているということにすごく感動しましたし、勉強させられました。ですから楽しいということを起点に広めていけばもっと人が集まるんじゃないかと思います。

(甲山さん)

やはり活動が楽しければというのが大原則で、自立的な活動を目指す地域の団体とサポートする行政との距離感ややり方は、どこの地域にとっても共通の課題です。活動が広域になると、どうしても新しい団体が必要になります。その時に団体をどう自立的に運営し、活動を続

けていく基盤を作っていくのかお伺いしたいのですが？

(大原さん)

事務局をどこに置くかという非常に難しい問題がありましたし、また、会員が集まる場所が欲しいという要望もありました。広くなくていいので間借りして事務局があればお茶飲みに集まったり、門戸を開いておけば集まりやすいということです。あと、清掃活動ですと20~25名位はずっと集まりますが、他の行事をやるうとするとなかなか人が集まらないことが、うまくいってない部分ではございます。

行政職員も市民の一人として応援を！

(甲山さん)

今後の総合支局のサポートや花巻市との連携はどういった形でされていきますか？

(大原さん)

住民協働の活動に対する助成事業に応募し、5ヶ年助成が受けられるということが決まり、今年度以降、資金面での自立ができたというのが大きなポイントです。また、取り組みには、花巻市にも当然入っていただき、環境担当の方に総合学習支援の中の指導者という役割で入っていただきました。防災面でも、担当の方がこの地区の洪水対策の説明をこの会の中で行い、会の意見も踏まえた工事になりました。身近な生活レベルで市とも協働ができてお互いに良かったと思っています。

(甲山さん)

後川の事例は、県内では珍しいNPOと行政と地域の3つが一緒になって水平のパートナーシップでやられたということですが、中立的なNPOが第三者として入ったことで進めやすかったという意見もあり、今後の一つの進め方の参考になるかなと思いますながら聞いていました。

(今泉さん)

私は、全国川づくりワークショップの仕掛け人です。全国の川づくりの方々が集まって発表しあいみんなで誉め合います。ぜひ参加して全国と交流して、後川があれば前川や中川もあると思うのでそこで姉妹河川なんかを結んで一本で頑張られたらどうかなと思います。また重要なのは、行政は年度予算でやられますが、住民の熟度に合わせて住民はやらないといけない、そのすり合わせが非常に重要になってくるので、

それを柔軟に土木の方でも考えていかなければならないのかなと思います。それと最も重要なのは担当が変わっても応援するという仕組みです。市民の、県民の一人として応援するという仕組み。僕は楢山さんの5年後が楽しみで、この後川に来てるのかというそこが大切だと思うし、部長も10年先に来ていただければいいかなと思います。NPOが入って水平役割分担でやっていっていることがいいと思います。5時以降もぜひ県職員・市職員の方もこういうクラブに入って活動していただければいいのかなと思います。

【全体ディスカッション】

「さあ今からできること」

◎コーディネーター 甲山知苗 さん

◎アドバイザー 今泉重敏 さん

◎県土整備部長 西畑雅司

まちづくりとは？

(甲山さん)

一番最初に非常に大事な質問です。「まちづくりの定義とは何ですか？」という質問です。

(今泉さん)

まちや地域が将来こうなったらいいなという思いをみんなで出し合って、ただそれがばらばらであってはいけないというその方向性をみんなで確認しながら、それに向かって一人一人が参加して汗を流すことだと思います。勉強だけじゃまちづくりとは言わない、行動に移すということ。まちの将来をみんなで考えて実現に向けて行動することがまちづくりだと思います。

(西畑さん)

わたしは、地域づくりみたいな観点かなと思っておりまして、そこに住んでいる方々、住み続けるであろう人達が自分たちの住んでいるところが自分たちにとって心地よい場所になるように、それぞれの人達がそれぞれのできる範囲でいろいろなことをやっていくことかなと思っております。

(甲山さん)

私にとってのまちづくりというのはたぶん生きていくこと。私はひとりでは絶対生きていたくないし、もし地球人類最後のひとりで生き

残るかと言ったらひとりで生きるくらいならみんなと一緒に死んだ方がいいと思うので、たぶん暮らしていくこと自体、つながりをつくっていくことが私にとってのまちづくりかなと感じております。

さて、会場からの質問です。「いつも思うのですが、雪が積もると点字ブロックが見えなくなりますが、目の見えない人達はどうしているのでしょうか？ユニバーサルデザインの観点から見たまちづくりについての考えをお聞かせください。」という質問です。

(石川さん)

誘導ブロックが見えるくらい除雪するのが理想なんです、現状では全部ができてるかといわれるとはっきり言えませんが、努力しながら進めています。

(会場から)

誘導ブロックは黄色が多いですが、一部で黄色を使わないところもあります。場所によって黄色が目立ち過ぎて景観に合わないと感じるところもありますがいかがでしょう？

(今泉さん)

私は、日本サインデザイン協会にも入っており、そういう問題は、結構出てきました。

当初、健常者の方が見て目立つという意味じゃなかったのかなと思いますが、本当に視覚弱者の方にとって見やすいかということでもないような感じがします。今見直しが行われてると思います。

一人一役で参加しやすい仕掛けづくり

(甲山さん)

次の質問です。「市民参加の手法としてワークショップを行っています、参加できなかった住民の方への情報の提供や共有はどのようにされましたか？工夫した点などもご教授ください。」

(今泉さん)

ワークショップはアメリカで生まれたものです。言葉が通じない人同士が、一緒にやろうと思えば、会議より現場でその空気をみんなで体験して理解してから、本当にそれが将来この地域のためになるか本音で意見を出し合って、情報を共有してよいものを作り上げていこうという作業です。僕は「わくわくワークショップ」と言っています。

(甲山さん)

ワークショップは参加した方は現場も現状も知って、今度こうしたらいいねと感じられるすごくわくわくした場なんです、逆に来なかった方との情報量がものすごく違ってきますね。そのケアをどうしているかという質問でした。

うちのNPOでも町内会さんと自主防災のワークショップをした際には、やった様子を簡単にまとめたものを班長さんを通じて全戸配布しました。

(今泉さん)

できるだけ口頭で伝えようと、参加した人がPTAの会員さんであればPTAの会合がある時に最初に2分間時間をもらって説明したりしています。それと重要なのは、出席できなかった人に「あなただめ」と絶対言わない、働く時間帯も違うので来なかった人を否定しないということ。逆にその方がインターネットが得意なら、その方にワークショップ用の資料集めをお願いし、ワークショップで活用する。その人は出席してなかったけど翌日、「ありがとうね、あれ役立ったよ」と一言言ってくればその方も直接参加してないけどすごく一緒に参加したような思いになります。

(甲山さん)

地域活動は幅広い年齢層で成り立つのが理想だと思うのですが、仕事をもつ若い人は平日参加できないのが現状です。若い人が参加しやすくなる仕掛けや仕組みとしてどの様にしたらよいでしょうか？

(今泉さん)

若い人は、趣味・特技が僕らみたいな中年とご高齢の方と違うものをたくさんもっています。例えば、若い人にホームページを作ってもらったり、絵が上手な人に絵を描いてもらったりすることで、その人の特技を引っ張り出して、「今日は参加してないけどもこういう資料をいただきました。彼に会ったらお礼を言うておくように」というようなことを地域の会のリーダー達が引っ張り上げて、みなさんにほめてもらうようなことを言う。そこが大切。時間に参加できない方もいるわけで、どうやって自分が一人一役で参加しているのか、その雰囲気をつくることだと思います。

(甲山さん)

感想を紹介します。「すばらしいアイデアの数々ありがとうございました。いくつかいただきです。文化の違いも感じました。西日本で知らない大人＝不審者ですが、岩手とは違うなと感じました。防災対策のやり方は、地域によってやり方を変える必要があると思います。岩手で同じやり方をすると、大人に対する不信感



会場の声を拾いながら

を子どもに教えるだけかもしれないですね。」信頼できる関係・コミュニティがまだまだ残っている地域ではこういう意見もありますね。

地域主導の防災活動は「避難」が大事

(甲山さん)

西畑さんに質問です。「治水対策と絡めた地域主導の自主防災組織の取り組みの事例があったら紹介してください。」という質問です。

(西畑さん)

治水対策というと国とか県の仕事です。ダムを造ったり、堤防を造ったり。ここに住民はなかなか参加できないし、すべきではないと思います。でもハード整備は、全ての地域である水準までいっているかというと実はそうでもありません。県でも重点的にはやっていますが、すぐには効果が出ません。そういう時に地域の防災組織に期待することは、避難です。市町村長の命令や勧告を行います、実際にはなかなか避難できていません。自主防災組織のようところで常日頃顔つき合わせていろいろ話をされている方々で「あれ危ないよね」という形で避難するとか、そういった部分で自主防災組織の役割は大きいのではないのかなと思っております。

トイレ問題

(会場からNPO)

「どんと晴れ」の雫石から来ました。葛根田川の川の公園には、散歩の方が相当見えています。学校の子どもたちを案内し、先生に感想を聞きましたら、「トイレがなくてね」と言われました。町では、堤防外で簡易トイレを作っています。将来的にはトイレが欲しいのですが、簡易トイレにしても賃借料の関係で非常に困っています。

(今泉さん)

周辺や流域にはお店や民家が全然ない。何もないとむしろ本当に必要かどうかを利用者に聞いてみないといけないのかと思います。意外と設置したら使わないという所が出ています。本当に必要なかをきちんと聞いた上で、社会実験としてみたらどうかと。ワークショップなどで河川管理者と一緒に協議したらどうかと思います。今、川の駅構想が国の方でも議論になっています。水辺の学校の時には、必ずそういう施設を作ろうということで作られます。日本トイレ協会の方で応援いたします。悪かったら水に流しますので。

有償ボランティア・無償ボランティア

(会場からNPO)

住民に根強いまちづくりの参加を働きかけていくときに、国道であればボランティアサポートプログラムというのがありますが、地域に働きかけた時にまず興味がなく、無償だということではなかなか根付きません。もう少し有償ボランティアの考え方をもっていただければ、まちづくりとか市民活動の広がりが出るのにと日々思っております。

(甲山さん)

託児ボランティアなどは、コスト、時間、責任も大きく有償でやっているNPOがほとんどです。農地・水・川の委員会でも、人的な部分に対して補助が出る助成をしています、これまで無償ボランティアでやってきたことにお金が払われたり払われなかったりする。また、無償ボランティアになれば、生活や経済的に余裕がある人だけがボランティアをできることになってしまう。そういった議論もあり、無償ボランティアと有償ボランティアをどう使い分けていくのか大きな課題になっています。

(西畑さん)

道路の草刈りについては、振興局の土木部が町内会の方々といろいろお話しして、どういうふうに管理していきましようという話の中で、「業者さんに頼むんじゃなくて自分たちでできる範囲でやるから」という動きが県内で100箇所以上出てきています。ここには、業者さんにお支払いする半分かくらいの実費をお支払いしています。川でも草刈り機の刃や軍手やゴミ袋などを実費で、現物でお払いしている例もあります。

一方で、国道などで花を植えたりしている活動、こういうところは本当に無償ボランティアです。表彰状を贈呈するくらいです。また、まちづくりの知恵を出す部分、地域の景観を点検する活動には、非常に少額ではありますが動きが若干出てきています。

(今泉さん)

無償のときは、もう一方で有償のような応援ができないかということです。できるだけ他から視察に連れてきて、その活動のリーダーの方がお菓子屋さんだったらそこに連れて行って説明を10分聞いて、帰る時にはお菓子を買っていただいて、そこで金が落ちるとかですね。間接的に応援することでその人のやる気を高めるようなことをしています。また視察が盛んになるよう出来るだけ人と人との交流に力を入れるようにしてます。道路管理者では、ちょっとした歩道+α駐車場があると、そこでフリーマーケットがやれるとか、何か資金稼ぎができるような応援ができるようなしくみをみんなで考えたらどうかと思っています。サッカーのジュビロ磐田がある静岡の磐田市では、磐田ブランドということでブランド商品に登録を受けた商品を地域の方がインターネットで買くと、その3%、例えば一万円購入すると300円のポイントをもらえ、ポイントを好きな団体に寄付することができます。地域の商店街の活性化にもなるし、活動しているところに対しての資金援助にもなり、いい効果が出ると思います。

大学生の声

(会場から岩大生)

地域おこしの研究をしようかなと思っています。道路をただ歩くだけでなく、いろんな形で利用するというのは新鮮なことだなと思いました。かかしを使って、農道を観光地のよ

うにして地域おこしをしていくというのは、これもまた面白いなと思いました。

(会場から岩大生)

林学の勉強してる学生です。ちょっとくすっと笑うようなアイデアとか、例えば漢字の看板だとか、人間が無意識のうちにやってしまうような行動に注目するようなアイデアがとても新鮮で、そういうことにどんどんみんなが気づいていけば街も面白くなっていくんじゃないかと思います。林学関係では、木を加工する製品とか木工細工とかあるのでそれを林道に立てて面白くすればいいと思いました。

若いパワーを取り込む秘訣

(会場から県職員)

今泉さんがいろんな取り組みで地域の方をうまく巻き込んでいると、すごく感心したんですが、人が固定化しているかなというところがあってそれをどういう風に打開すればいいのかなと思いました。

(西畑さん)

岩手の場合は、本当に固定していますね。国では所長が変わると、下も変わるんです。覚悟を決めてやるよと、君に任したからやっていいよという風にすれば、下の人は自由に動いていけます。今どんどん公共事業のお金が減ってきています。人は急に減らないですから、一人の扱う仕事の量が少ないですね。前だったら住民協働なんて手間がかかってやってられないという感じだったんですが、一つの仕事に対して前に比べれば丁寧にできる。工事をやることでそこに住んでる人はどう思うんだろうかという疑問が出ると、じゃ聞いてみようという話になります。そういう丁寧な仕事をやっていけば徐々に広がっていくのかなと思っています。私が盛岡に来て思うのは非常に皆さんまじめです。今泉さんのスピーチでは遊び心があって、やれるところからやっていくという、そういうやり方のノウハウですとかこういった部分をもうちょっと勉強しなければいけないなと思いました。

(今泉さん)

地域性があります。私が地域に入る場合は、この人がキーマンだなとか人間関係図を作ります。そういう中から、例えば川づくり道づくりで何がやれるかということを導き出していきま

す。すばらしい考えをもった学生さんも中にいらっしゃると思いますが、自治会を通じるとそういう方は入ってこないの、学生さんを我々が逆にすくいます。先ほどのフン取り隊の隊長にして新聞に掲げると、彼はその新聞を実家の大阪に送って、お父さんお母さんから祝福を受けたという風に聞かれています。本当は活躍できる人をうまく掘り起こしていかないと固定化されて、最後は固定化の中であそこしかだめだとか、ノウハウも限定されてしまいます。私は人材を探している時に小さな成功事例をつくります。ゴミの不法投棄のしめ縄とかですね。そうすると俺たちもやれるんじゃないかとなる、これが一番大切なこと。そして私と地元、地元の人同士が信頼関係をつくっていくことです。役所の方は役所を異動してもそれを応援する。そういう環境をぜひ西畑部長に組織で作っていただきたい。

わくわくしながら道を新たな視点で歩くようなことは林道でもできると思います。ムーミンの木に似てる、これはドラえもんとか、この木の長さは太さはどれくらいあるのかなとかわくわくするもの。農地だったらこれは10アールの田んぼ、とれる米は8俵、あなたが1年間に食べる米は1俵、5人家族だったらこれくらいの範囲ですよというのがわかるような仕組みにしておく、そこが通学路であれば、ここは10アール、「ああそうか」と子どもたちが見て面積を覚えていきます。隣は？答えは来週の月曜日、とか言っていると子どもは「70アールくらいかな」となると岩手の小学校を卒業する頃には小学生は全部面積がわかるという、スーパー小学生が生まれるのかなと思います。そこにあるのを活かしながら、わくわくやれるようなそういうみちづくりができればいいなと思います。

（会場から 行政職員）

自分なりにも子どもを軸にしかけていく施策を考えながらやっています。

フン取り隊のリーダーに大学生の方がなされている絵を見せていただきました。ただ、高校、大学、就職してすぐの方から30半ばくらいまでに対する動機付けが難しいなと普段実感しています。

（今泉さん）

就職されたばかりのところから30代は、引っ張り込むのが非常に難しいと考えています。逆に頭を柔らかくして、学生の時にこんな楽しいことをすると、就職しても電話がかかってくるかもしれません。実際に九州で川づくりワークショップをやっています。去年まで学生さんで参加していた方が「今年も来ました」と言ってくるんです。「九州地方整備局に就職しました。」と言って。今度は担当者としてそれをやるようになり、彼女の活動をみんな見ているので「俺たちも応援するよ」と住民の方が言っているわけです。学生さんの時に会って、地域づくりをやりたいという熱い人の集まりを通じて学生を引き受けて巻き込んでやっていきます。前の段階が大切なのかなとですから小学生からそれやっておくとだんだん大人になってくると今のようなことがなくなっていくのかなと思っています。ぜひ道づくりでも学生さんも一緒にやるような仕組みを、そして彼らを表彰して、10年20年たってもう1回戻ってくれて彼らがやってくれたおかげでこうなってるんだねと、里帰りシンポジウムとかやればいいのかと思います。

（会場からNPO）

学生のボランティア体験をけっこう受け入れています。今高校生、大学生が就職する時にボランティア体験があると、それが一つ評価される時代だということで、就職担当の先生とパイをつくって清掃活動や伝統行事と一緒にやっています。1、2度来て、それが楽しいとわかれば来てくれます。何よりも私たち感動的なのは、「地域のおじいちゃん、おばあちゃんがこんなに頑張っているのに若い人たちが何もやってなかったのは恥ずかしくなりました。」とか。学校や部活など同世代の中の活動しかしていない彼らが、「上の世代の人から支えられて物事ができたのは初めてです。」とか感動的なコメントを残してくれます。そういう活動もまた一つの方角性かなと思っています。

明日の岩手を元気にするこれからの夢

(甲山さん)

最後にパネラーの皆さまからはこれからの夢を一言ずつ。

(清水さん)

パソコンを購入して、堀野の交流センターから情報発信したいと思ってます。それが進んで地域が活発化されればいいなと思っています。

(石川さん)

夢というかこういう人との出会いを大事にして人間として成長できればいいかなという風に思っております。

(大原さん)

自分たちにできることは自分たちの手でという合い言葉に、私たち個人がこの川をきれいにしていくというのが夢です。昭和 20 年代はこの川は泳ぐことができ、橋から飛び込んでも頭を打たない、けがをしないくらいの水量があった川だったとのことです。子どもたちがそのような川で泳げるようになるまで頑張っていきたいと思っています。

(楢山さん)

以前には、職場でNPOの方と時々お話した後で「何か不思議な人と話をしていたね。住民でもない行政でもないどなただったの？」ということをよく言われましたが、徐々に職場内も違和感は無くなっています。こういった形でのNPOの方とのつきあい方、協働の仕方もいいなと思っており、機会があれば是非PRも兼ねながら職場で話していきたいと思っています。

(西畑さん)

公共事業のあり方というのは様々批判も受けたりしていますが、昔そもそも自分たちの地域は自分たちでできるところは草刈りもやり、川も治し、道普請してというところがあったと思うんです。しかし戦後の高度経済成長の中で、道路は国や県がやるものだとか、ちょっと分業が進みすぎて、住民の方も行政に全部お任せというか、要望だけという形になっていますが、本来の土木はそういう事じゃなかったと思うんです。お金がなくなってきたということもありますが、少しずつ人口も減少して右肩上がりの社会でない中で、また昔に少しずつ戻りつつあるのかなと思っています。計画づくりの段階・維持管理の段階、様々な段階で住民ができる範

囲でご協力していただく方が地域にとってもいいものができるのではないかと、そういう方向で進めていきたいと思っています。

(今泉さん)

この時期での夢といったらやっぱり年末ジャンボで3億円当たることだとは思いますが、宝当袋というのを今日持ってきました。佐賀県の400人未満の小さな離島で唐津市の高島に宝当神社があって、神社を島おこしに活かそうということでグッズをつくったら、この中に入れた人が2億円当たりまして、そうしたら参拝者が13万人来ています。こういうちょっとした仕掛け、こういうのが皆さんにも眠ってると思います。世界遺産じゃなくても、僕は地域の方が大切にしている世間遺産というのに目を向けて、世間遺産めぐりというのができるようなそういうしかけができればいいなと思っています。そのためにはトイレが必要なので、まちの駅ということになると思います。先日福井県に行きましたら、交差点にかき運動というスコップが置いてあるんですね。そして信号機で赤で待っている間にかきかいてくださいというふうになっていました。すばらしいな、これが一人一役かなと思います。最後は体を大切にしまちづくり地域づくりをやっていききたいと思います。一杯飲まないで本音が出ません。ですからこの頃はまちづくりは肝臓からと言っています。岩手県の宣伝をぜひ九州でもやっていきたいと思っています。協働によるまちづくり、応援しておりますので行政の方も5時から市民の一人だと言うことでぜひ頑張ってください。

(甲山さん)

皆様の一步が10年後の岩手をもっともっと元気にしている、明日の岩手を元気にしていると思います。今日のこのひとときが明日の活動の元氣と幸せと、そして元氣な岩手につながることを願っています。



『岩堰川フォーラム』開催

～自然の落差・水エネルギーの利用～身近な自然エネルギーの利用実現に向けて

県南広域振興局土木部

県南広域振興局土木部では、平成20年1月25日（金）に奥州市前沢区前沢ふれあいセンター2階研修室において『岩堰川フォーラム（第3回）』を開催しました。

これまで2回のフォーラムを開き、河川エネルギーの利用方法と岩堰川の有するエネルギーについて、参加者の皆様と一緒に考え、検討し、広く情報提供を行ってきました。

しかしながら、地域エネルギーとして利用可能であることを実証するには、発電を開始するまでの許可手続きやコスト等を明確にする必要があることから、今年度は、具体的な取組み手順をまとめ報告するとともに、岩堰川のエネルギーについての企業提案、さらに、那須野ヶ原土地改良区連合から先進的事例を紹介していただくことで、「きっかけづくり」となるような情報提供の場を目指し開催したものです。

当日は、県南広域管内の地元住民や土地改良区及び建設会社等民間企業のほか、奥州市、県企業局、学識経験者など約90名の来場がありました。

《主なプログラム》

調査報告 「小水力発電計画導入に向けて」

財団法人岩手県電気技術振興協会

壽 忠彌 氏

企業提案 「地元への自然エネルギー利活用について」

株式会社エヌリス

片岡 充英 氏

具体的成功事例紹介

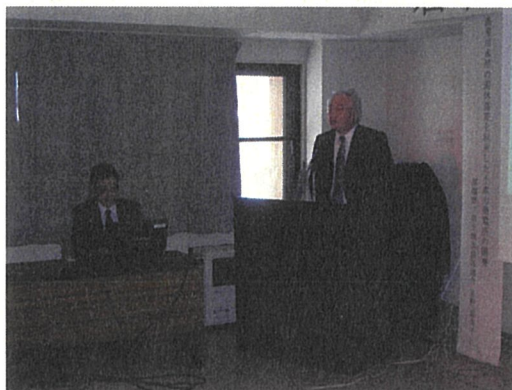
「農業用水路の遊休落差を利用した小水力発電所の開発」

栃木県那須野ヶ原土地改良区連合

星野 恵美子 氏



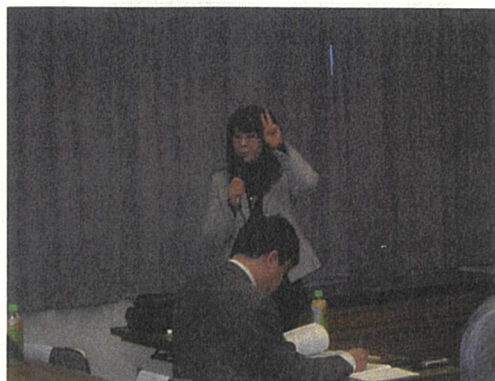
主催者の挨拶をする菅原土木部長



調査報告を行う壽氏



熱心に聞き入る参加者



事例紹介する星野氏

「コンパクトな都市づくり推進フォーラム」開催

都市計画課

- ◇ 日 時 : 平成 20 年 2 月 21 日 (木) 13:00~16:45
- ◇ 会 場 : いわて県民情報交流センター アイーナ 8 階 812 研修室
- ◇ 主 催 : 岩手県県土整備部都市計画課・岩手県都市計画協会

県内市町村及び県、振興局の都市計画担当部局職員を対象に行われた標記フォーラムには、関係者合わせて約 80 名が参加しました。

県の取組みとして、都市計画課から「岩手におけるコンパクトな都市づくりの基本方針」と「大規模集客施設の立地に係る広域調整の判断基準」について、商工労働観光部経営支援課から、「特定大規模集客施設の立地の誘導に関する条例」について説明した後、福島大学教授鈴木浩氏の講演、意見交換会を行いました。

《講 演》

日本のコンパクトシティ研究の第一人者である福島大学の鈴木教授が、「コンパクトシティへの道—その課題と展望—」と題して講演を行いました。

この中で、「まちづくりに必要なのは、地域のグランドデザインを描くことである。そのうえで、地域における自治体の政策形成能力を高め、産業界や住民との合意形成を図ることが重要である。」と、コンパクトシティの実現に向けたまちづくりの進め方について、お話をいただきました。



福島大学教授 鈴木 浩 氏

《意見交換会》

鈴木教授を交え、市町村及び県の職員が意見交換を行い、コンパクトな都市づくりの必要性や、その実現に向けた考え方について議論しました。市町村から、コンパクトな都市づくりの具体的な取組みの紹介があり、鈴木教授からは、日本や海外における成功事例を交えながら、行政、商業、農業、地域住民との連携及び県と市町村との連携が重要であるとのアドバイスをいただきました。



意見交換会の様子

空港整備事業の紹介

イーハトーブの風によって

花巻空港事務所

花巻空港では、平成21年春の供用開始を目指し、新ターミナル地区を現在整備しています。

新ターミナル地区では、エプロン（駐機場）、及び滑走路からエプロンへの誘導路の舗装が終了、現在は誘導路グルーピング（排水溝）工事、飛行場灯火の設置工事、構内道路・駐車場工事を実施しています。

また、1月末には新ターミナルビル工事が着工し、着々と新ターミナル地区の整備が進んでいます。



新設エプロン照明灯柱



クレーン2台で柱の建て込み



吹雪の中での組み立て



投光器の取り付け

この新エプロンに、「エプロン照明灯柱」を設置しました。

灯柱は、ランプ交換など保守管理の軽減及び安全性を確保するため、投光器を設置する架台が地上付近まで昇降出来る一括昇降式とし、保守性・経済性に優れたバランスウェイト方式を採用しました。

バランスウェイト方式は、投光器設置架台とウェイトが重量バランスをとることで、小出力の電動機でバランスウェイトを上下させ、それにより投光器設置架台を昇降させるものです。

高さ25m×2基、20m×1基、17m×3基、合計6基のエプロン照明灯柱が、来春に新エプロンで航空機を出迎えます。



点灯状況(照度測定)

主要地方道大船渡広田陸前高田線「船河原地区」竣工

大船渡地方振興局土木部



平成 11 年度に事業に着手した、大船渡市末崎町の主要地方道大船渡広田陸前高田線船河原地区がこのたび竣工し、碁石海岸方面へのアクセスが大変良くなりました。

《路線と工区の概要》

船河原地区は大船渡と広田・碁石海岸方面を結ぶ大船渡側の起点にあたります。

この付近は三陸縦貫自動車道大船渡碁石海岸インターチェンジが開設されるなど、大船渡市の

南側の玄関口として、また、碁石海岸などの観光地への入り口です。

今までの県道は、古く国道 45 号線として開設された路線で、幅員が狭く、大型車の通行が困難で、朝夕は渋滞が発生していました。

そこで、平成 11 年度よりこの狭窄箇所 1,200m の改良を目的として事業が開始されました。

《地域との協働によるヤブツバキによる法面緑化の試験》

大船渡市はヤブツバキの太平洋側の北限とも言われており、いたるところに自生している椿を見ることが出来ます。

船河原では道路の法面保護に使用する植生基材に、このヤブツバキの種を試験的に混ぜて吹き付けを行いました。この種は椿に関する地域文化を保存することを目的としている市民団体、「椿の実でまちづくり実行委員会」が市民と集めたものです。



ヤブツバキは地上部の成長がゆっくりとしており、根が強固で、寿命が非常に長く、地域の在来種であることから、道路の法面の安定を図るには理想的な植物と考えられますが、今まで法面に使用した事例が無かったことから、知見がほとんど無く、並行してヤブツバキの特性に関する試験、調査を行っています。

船河原では順調に進めば、春には発芽し、7～8 年後には開花をはじめると見込まれます。



竣工式の様子



工事起点からの眺め

大荒沢川筋 川舟2号堰堤完成 えんてい

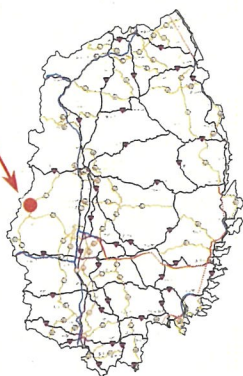
県南広域振興局 北上総合支局 土木部

大荒沢川は、西和賀町の北西地区にあり、奥羽山脈の東斜面に位置します。当該流域沿いには斜面崩壊箇所が多く、岩手県では第1号の砂防堰堤を始め、数多くの堰堤を建設しています。

今回の事業は、平成9年の洪水を機に、扇状地の氾濫防止対策として鋼製スリット堰堤等を整備し、人家25戸と公民館等の公共施設を土砂災害から守るために行われました。

平成19年12月に完成した川舟2号堰堤（鋼製スリット堰堤）は、コンクリートの堰堤に鋼製くし型の通水部を合わせ持った県内では珍しいタイプの堰堤です。この構造のため、川の流れが寸断されず、魚の遡上も可能となっています。

施工位置
(西和賀町沢内字川船)



鋼製スリット部



川船2号堰堤 全景

○計画諸元

流域面積 10.57km² 最大洪水流量 208m³/sec

砂防ダム形式 重力式 鋼製スリットダム

ダム高さ 9.0m 堤長 247m 計画貯砂量 73,200m³

○事業期間

平成12年度～平成19年度（平成19年12月完成）

○特記事項

自然豊かな地域であることから、沢内地域の自然に詳しい雪国文化研究所の助言を受けながら自然環境の共生に配慮した事業を行いました。



平成9年の洪水の様子